

用水季報

令和2年7月 第2号
発行元：美しい用水の会
連絡先 090-1993-5903
<http://bunji-yosui.org/>



用水通水状況：4月1日～6月末までの間で砂川用水が止水したのは、5月22日～26日の5日間立川市内での護岸工事、6月5日～7日の3日間立川市内ごみによる止水の合計8日間でした。夏休みに水の流れを大いに楽しんでください。

野中明さんは昭和10年5月生まれ。85歳。今日まで農業一筋に生きてこれ、地域の青少年育成に尽力され、さらにJ Aむさし国分寺地区援農ボランティア受入農家推進協議会会長を永年お勤めになり、並木公民館農業体験講座を支援し、ふれ合い体験農園として畑を市民に開放し、国分寺市の農業の発展に大きく貢献されています。今もかくしゃくとして、市民を支援し、農業に勤しんでいらっしゃいます。今回野中明さんにご寄稿いただくようお願いしました。



野中さんの畑

用水今昔：寄稿＝「用水のある生活」野中明さん＝

私の父は農業をやっていたが、私が中学生のころ42歳で他界し、それ以来私は農業にほんどの時間を費やしてきた。今は長男にすべてをまかせ、気ままに畑仕事をし、ふれあい体験農園の支援を行うなどをしている。私の家は五日市街道の北側沿いにあり、家の裏手に市の管理地として残る砂川用水跡があるが、今水は流れていない。父から受け継いだ畑は五日市街道から玉川上水まで南北に奥行きがあり、東西は並木町2丁目交差点から神明社までの広さであった。私が5歳の頃、砂川用水は生活になければならないものだった。毎年、暮れの28日であったと思うが、用水沿いの各家庭が正月用に餅をつくために用水でコメを洗うせいであろう、用水が真っ白になったのを覚えている。翌日にはキレイな流れになっていたが、子供心に用水というものを意識した最初の思い出。江戸時代に用水が引かれて以来、用水は飲料用・生活用水であり、また生活全般にわたって極めて大切なものであったが、井戸が掘られ、水道が引かれ、用水の利用目的も変わって来た。水路に降りる川端（水路への階段をそう呼んでいた）で野菜や食器を洗うなど、日常生活で用水にはよく接していた。子供のころ、畑の地続きということもあり、水量が多い玉川上水北側にある新堀用水で子供仲間と泳いだりした。昨年だったか、小平市の長老と話した時に、「野中用水のほうから遊びにきた子供は野中さん達だったのか！えらく元気で喧嘩が強かったな！」と言われ大笑いしたことを思い出す。戦後、「ぬま揚げ」といって毎年4月ごろであったと思うが、用水沿いに住む人たちが日を決めて用水の掃除を一斉にやった。また幣束のついたお札を水路脇に刺し祀るなど、祖父母がよく「用水は大事」と言っていたが、用水をみなが大事に守っていたものだ。時代が変わったとはいえ、水の流れは今でも大切であり、さらさら流れる用水は気持ちの良いものだ。これからも、きれいに流れ続ける用水であってほしい、と願っている。



砂川用水路跡

用水美化活動実績 4月から6月： 新型コロナウイルス感染予防のため定期的作業は、6月4日（木）立川市若葉町境、6月15日（月）ヤマモモ公園、6月27日（土）並木公民館親水施設の3回となりました。しかしこの間会員各自による気付き清掃は並木町公園など各所で45回にわたり実施いたしました。

季節の用水：並木町公園の用水の草花「新gar田」)

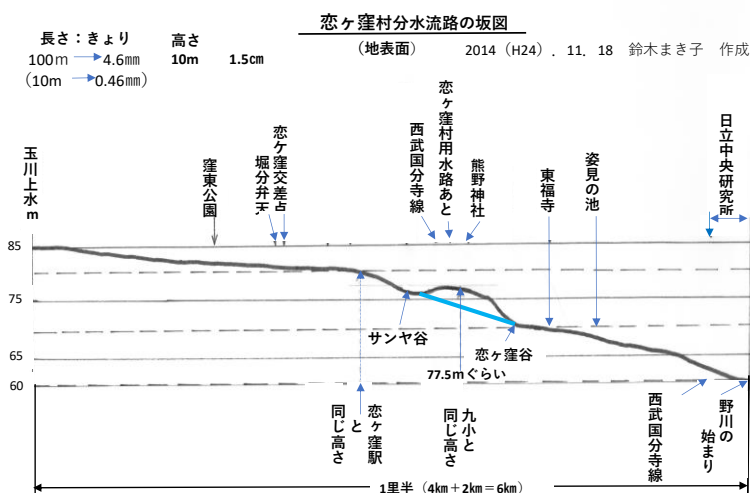
並木町公園に面して流れる砂川用水をご存知でしょうか？春には菜の花、夏にはヒマワリが咲く緑の草花の用水路です。もともと武蔵野台地はチガヤの荒れ野で江戸時代新田開発が始まりこの用水が引かれると、いつしか荒れ野は美しい田園になりました。しかし時が流れ、昭和30年代から宅地化が進み用水の役割が変わり、この護岸の美化活動を始めた8年前ごろには、雑草が背丈迄で伸びて流れも見えない程に荒れていました。私は、護岸を新田開発の面影を残す新しい用水の姿に戻せないかと想い、ここ数年、雑草を根元から丸刈りしないで、20センチ位の高さに手で刈り、下草に日が当たる様にしました。すると下草が元気に育ち、春には20種以上の野の花が次々に咲くようになりました。その中にはおそらく鳥や風が運んだ種が芽吹



いた草花もあります。私は、里山のような～自然と人の手の融合～で、原生の自然に見られない独特の景観を持っている新しい用水の姿が大切と考え、所々に球根や園芸植物を植え、菜の花やヒマワリの種も蒔き、自然とコラボした花壇として、この護岸を新田のガーデン「新gar田」と名付けて毎週水曜日に美化活動を進めています。並木町公園で遊ぶ子供達が手伝ってくれる事もあり子供達の心の中にこの景観が～ふるさとの小川～として残していけるようにしたいと思っています。

(栗田 昇)

恋ヶ窪村分水とその地形



鈴木さんはこの図を子供たちに示し、一昨年12月九小4年生とこの分水跡を実踏。学童は眼を輝かせ水路の形や開削の苦勞に想いを馳せました。

開削工事がいかに大変なものであったかを、子どもたちは理解し、想像することができました。普段は分水跡の中にはなかなか立ち入りできませんが、遊歩道や分水沿いにある伝鎌倉街道から、水路内を垣間見ることができます。

機会あればぜひ皆さん散策がてら遊歩道からご覧になってください。

(鈴木 まき子)

今後の美化活動予定

新型コロナウイルス感染予防で作業予定が変更となる可能性があります。美しい用水の会のホームページ (<http://bunji-yosui.org/>) の活動予定をご覧ください。原則は、毎月第1月曜日、第2・第4土曜日に地図にある9か所のいずれかで美化活動を行っています。気楽にご参加ください。長靴をご用意いただければ、用具はあります。

【「美しい用水の会」会員募集】「美しい用水の会」は、2018年に設立し砂川用水美化活動のみでなく、恋ヶ窪村分水美化活動も行い、会員一人ひとりが国分寺の用水に関係するいろいろな活動、歴史の勉強、草花生育、イベント企画などを自由に行い、会員相互で支援する団体です。年会費は¥500。また、気づき清掃と名付けた、定期的活動ではない、会員各自が気付いた時に草を刈ったり、ごみを撤去したりする作業も行っています。このまちの用水、水、景観を楽しく保全しましょう。

ご連絡は090-1993-5903まで、会の詳細はURL (<http://bunji-yosui.org/>) をご覧ください。